約束４－⑵　子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】

めざす姿

次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

	指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値 〔※( )書きは「わからない」の回答を除いた場合〕 22	23	24	25	H24目標値に対する達成率	H25目標値に対する達成率
①	青森県学習状況調査における通過率順位　3位以内を目指します。 小学５年生（国・社・算・理）	青森県学習状況調査	位	7	6 6	5 11	4 9	3	×	―
	中学２年生（国・社・数・理・英）	青森県学習状況調査	位	5	5 7	5 6	4 8	3	×	―
②	青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。 小学５年生　「勉強が好きだ」	青森県学習状況調査	%	70.6	72.0 －	74.0 71.8	77.0 68.2	80.0	×	―
	中学２年生　「勉強が好きだ」	青森県学習状況調査	%	54.0	55.0 －	56.0 58.6	58.0 53.2	60.0	×	―
③	小学校で３３人学級を実施している学年の割合　83.3%を目指します。	業務取得	%	33.3	－ 33.3	－ 50.0	66.6 66.6	83.3	○	―
④	スポーツ全国大会・東北大会参加件数　56件を目指します。	業務取得	件	52	53 60	54 68	55 94	56	○	○
⑤	文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数　7件を目指します。	業務取得	件	5	5 4	5 3	6 3	7	×	―
⑥	市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	84.5	85.0 80.7 ※(87.5)	87.0 81.1 ※(88.5)	89.0 81.7 ※(89.9)	90.0	○	―
⑦	文化・芸術活動をしている市民を増やします。	市民評価アンケート	%	12.1	13.0 24.7	15.0 24.5	20.0 20.7	25.0	○	―
⑧	スポーツ、レクリエーションをしている市民（月１回以上）を増やします。	市民評価アンケート	%	25.0	26.0 34.9	27.5 35.6	37.0 35.2	40.0	×	―

H24目標値に対する達成率　○:目標を達成済み　×:目標を達成できない　―:判断できない
H25目標値に対する達成率　○:目標を達成済み　―:目標を達成できない・判断できない

約束全体の評価

めざす姿の達成状況を示す指標8項目（10指標）について、平成24年度の目標値に対する達成状況は、「目標を達成済み」が4項目（4指標）、「目標を達成できない」が4項目（6指標）となっており、全体として達成率は高くない状況となっています。
「目標を達成できない」3項目（5指標）の青森県学習状況調査の結果に基づき判断する2項目（4指標）及び文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数については、いずれも基準値を下回る状況となっており、目標達成に向けた更なる取組が必要となっております。

平成24年度における注目指標のうち、市民評価アンケートによる「⑥市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。」については目標を達成しております。さらに、「⑦文化・芸術活動をしている市民を増やします。」についても目標を達成しております。これは、音楽芸術後継者育成事業などの既存事業の継続実施のほか、弘前城薪能や伝統音楽後継者育成事業（津軽の音コンサート）など、弘前城築城４００年記念関連事業を実施したことにより、市民の文化・芸術に対する関心が高まったものと思慮されます。また、「⑧スポーツ、レクリエーションをしているをしている市民（月１回以上）を増やします。」については、目標を達成できない結果となっています。

次に個別施策の実施状況については、「進捗率」では、15項目中13項目が「工程表どおり実施済み」、1項目が「概ね工程表どおり」、残り1項目が「工程表より遅れている」となっています。また、「達成率」では、11項目が「目標を達成済み」あるいは「概ね順調に推移」となっており、4項目が「遅れている」となっています。

文化・芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等については、おおむね順調であると判断できます。一方で、小中学生の学力及び学習意欲の向上や学習内容の定着については、めざす姿に向けての各施策の取組は着実に進んでおりますが、すぐに結果が表れないものであります。そのため、施策の実施状況や指標並びに達成状況等により総合的に判断すると、めざす姿に向けて**遅れている**といえます。平成25年度は、一流に触れるためのイベント実施に向けた取組をとおして市民の文化・スポーツへの関心をさらに高め、また、子どもたちの学力向上に向けた取組、そして子供たちの夢探しを応援する取組をとおしてめざす姿の実現に向けてさらに取り組んでまいります。

個別施策の実施状況

項目	事務事業数	進捗率	達成率
【未来を描き・導く人づくりを進めます】			
○１　大学等研究機関との連携事業の展開	2	A	A
●３　小学校の３３人学級拡充の検討	1	A	A
●４　海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業	6	A	A
●５　次の弘前を担い、創る「弘前リードマン」認定制度の導入	1	A	A
●６　「弘前マイスター」による出前授業	1	A	C
●７　小学校実践英語教育モデル校の試行（英語による授業の試行）	2	A	A
☆15　中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上「夢実現ひろさき教育創生事業」	8	B	B
【今を支えるプロフェッショナルを応援します】			
●８　弘前マイスター認定制度の導入とネットワーク化	1	A	A
●９　弘前地場産業インターンシップ（中学・高校・大学からの受け入れ）の試行	1	A	A
●10　大学や市立図書館の専門書の充実	2	A	A
●11　企業技術者の地元大学等研究機関への研修派遣支援	1	A	C
【文化・スポーツの才能を伸ばします】			
●12　「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	1	C	B
●13　目指せプロフェッショナル・キャリア支援（指導者・選手の市役所への臨時雇用など）	1	A	C
●14　一流に触れるため文化・スポーツなどのイベントの積極的誘致	4	A	A
【挑戦する人を応援します】			
○２　ドリームゲート事業（挑戦する若者の未来への投資）	1	A	C

進捗率　A:工程表どおり実施済み　B:概ね工程表どおり　C:工程表より遅れている　-:未着手
達成率　A:目標を達成済み　B:順調に推移　C:遅れている　-:判断できない

上段：年度別概算所要額（単位：千円）／下段：年度別決算額（単位：千円）			
22年度	23年度	24年度	25年度
7,998	31,344	198,976	138,031
6,215	38,659	94,490	

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-1	大学等研究機関との連携事業の展開	進捗率 A	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	施策を構成する2事業について、それぞれ「目標を達成済み」となっており、施策全体としても**「目標を達成済み」**と評価した。

	H22	H23	H24	H25
決算額	0	3,785	5,823	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
次代を担う人材の育成や地域全体の活性化のために、大学等研究機関と市の連携を強化し、次の取り組みを行う。 (1)「弘前大学と弘前市の連携推進会議」を設置し、連携体制の強化とその協議に基づく計画的な連携事業を展開する。	(1)大学連携推進事業	進捗率 A	「弘前大学と弘前市の連携推進会議」を開催し情報共有を図ったことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は「大学との連携事業数 3件/年」としているが、平成24年度の連携事業数は、弘前市と弘前大学との連携調査研究委託モデル事業4件を実施したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
大学連携事業数 3件/年	－	5	4	

今後の課題	連携推進会議の活発な協議による、連携体制の一層の強化を図りながら、大学が有する知的資源や人的資源を生かした連携事業を推進していく。

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
(2)地域課題に対応するために「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム(※35)」及びその構成校との連携事業を展開する。	(2)コンソーシアム等連携事業	進捗率 A	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム(以下「コンソーシアム」という。)学生委員会等と市長の意見交換会を実施したほか、「コンソーシアム活性化支援補助金」を活用して6大学合同文化祭を開催するなど、コンソーシアム等との連携事業を展開したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は「コンソーシアム等連携事業数 5件/年」としているが、学生委員会等と市長の意見交換会1件、コンソーシアム活性化支援補助金4件,「学都弘前」学生地域活動支援事業費補助金8件、計13件となり、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
コンソーシアム等連携事業数 5件/年	－	5	13	

今後の課題	コンソーシアムとの積極的な対話により、情報共有を図りながら、連携体制の強化を目指す。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-2	ドリームゲート事業（挑戦する若者の未来への投資）	地域の将来を担う産業人材を育成するため、将来の仕事（職業）に対する夢の実現へ向けて、自ら考えて行動する高校生に対して、体験・視察などの研修支援を行うとともに、高等学校が実施する資格取得のための講座開催を支援する。	進捗率 A	地域の将来を担う産業人材を育成するため、将来の仕事（職業）に対する夢の実現へ向けて、自ら考えて行動する高校生の体験・視察などの研修に対する自己啓発事業並びに市内私立高等学校が実施する資格取得のための資格取得講座事業の支援策を講じたことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
			達成率 C	目標は「活動支援件数」「資格取得者数」であるが、学校を通じて積極的に制度周知を行ったものの、活用実績が伸びず、いずれも目標値に達することができなかったことから、**「遅れている」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
活動支援件数 5人/年	－	1人	2人	
資格取得者数 20人/年（平成24年度のみ）	－	－	2人	
決算額	0	35	133	

事務事業名	今後の課題
ドリームゲート事業	事業移管に伴い、平成25年度から事業内容をリニューアルし、高校生などから将来のなりたい自分に近づくためのプランを募集し、優れた提案に対してその活動に要する経費の一部を助成する内容となった。募集、採択、及び市民への事業報告のそれぞれの方法について今後も検討していく。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-3	小学校の33人学級拡充の検討	弘前の未来をつくる人づくりのために、現在、小学校1・2年で導入している33人学級について、国・県の動向を把握しつつ、T・T（ティーム・ティーチング）（※36）や少人数指導等を試験的に実施しながら、小学校全学年の少人数学級化を目指し、きめ細かな指導による少人数教育の充実を図る。	進捗率 A	平成24年度は、小学4年生において、学年が2学級以上で、1学級が33人を超える場合には市費負担臨時講師を配置し、学年が1学級で34人以上の場合と5～6学年に対しては、学習支援員により、T・Tや小人数指導を実施したことから、**「工程表どおりに実施済み」**と評価した。
			達成率 A	目標は小学校で33人学級を実施している学年の割合であるが、該当する小学校にすべて臨時講師と学習支援員を配置した。よって目標値の66.6%を達成したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
小学校で33人学級を実施している学年の割合(H25) 83.3% 50.0%（H24）	33.3%	50.0%	66.6%	
決算額	0	7,270	19,563	

事務事業名	今後の課題
小学校少人数学級拡充事業	―

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-4	海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業	進捗率 A	施策を構成する6事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	平成25年度の事業実施予定である(3)海外自治体職員交流事業を除き、5事業において「目標を達成済み」との評価となっていることから、施策全体の達成率については**「目標を達成済み」**と評価した。

	H22	H23	H24	H25
決算額	0	7,291	10,145	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
国際化に対応した人材の育成を図るため、市役所職員及び市民の国際化を目指して次の取組みを実施する (1)全国市町村国際文化研修所の研修プログラムを活用して職員を海外へ派遣する。 (2)県の国際交流担当課へ職員を出向・派遣する。	(1)市職員海外派遣事業	進捗率 A	当初の計画どおり、全国市町村国際文化研修所が実施する海外派遣研修「グローバル人材開発コース」及び「これからの公共のあり方」に職員を派遣し、国際的な視野で施策を考察できる人材の育成を図ることができたことから**「工程どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は2人/年としており、職員2名の派遣を実施したことから**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
派遣人員(H23～) 2人/年	－	2	2	

今後の課題	自治体職員を対象とする研修カリキュラムは少ない状況にあるため、積極的に研修に関する情報を収集するとともに研修効果を検証しながら、効果的な研修の派遣を継続していく。

事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
(2)市職員国際化育成事業	進捗率 A	2年間の派遣期間の1年目として、県の国際経済課へ職員を派遣していることから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
	達成率 A	県の国際経済課へ職員を派遣していることから、**「目標を達成済み」**と評価した。青森県の幅広い国際交流の関係事務に携わる機会は、職員の資質の向上に寄与するとともに、市職員の国際的感覚の養成につながっていると考える。

目標	H22	H23	H24	H25
派遣人員 1人/2年間(H24～H25)	1	1	1	

今後の課題	県の国際経済課への派遣効果を検証し、平成26年度以降の出向・派遣の必要性を検討する。

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(3)(財)自治体国際化協会の国際交流プログラム等を活用し、海外自治体の職員を受け入れる。この受け入れを通じながら、人事交流への事業化を図っていく。	(3)海外自治体職員交流事業	進捗率 A	受入希望等の全庁的調査を実施し、受入に関する手続き(申請書の提出等)を行ったことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 －	目標は「海外自治体職員の受け入れ人員」としているが、達成度の判断は、事業の実施予定が平成25年度となっていることから、達成率の評価は、次回評価(平成25年度)から行う。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			海外自治体職員の受け入れ人員(H25～) 1人/年	－	－	－	
		今後の課題	国際交流員本人と担当課からの聞き取りなどを行い、国際交流員の継続配置を検討する。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
(4)民間団体等が行う、若者のホームステイを支援し、国際人育成を図る。	(4)国際人育成支援事業	進捗率 A	財団法人国際青少年研修協会(文部科学省所管)が実施する海外派遣事業への参加者(高校生)に対し、支援事業を実施したことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	目標は、「ホームステイ者数10人／年」としており、24年度においては12人に対し支援を行ったことから、**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			ホームステイ者数 10人/年	－	－	12	
			【参考】ホームステイ者数のうち、将来海外を視野に活動したい人の割合 70%	－	－	－	
		今後の課題	海外派遣事業(ホームステイ事業)は、参加者の費用負担が大きいため、経済的に参加できない家庭のフォローも必要となってくる。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
弘前市の将来を担う子どもたちが国際的な視野と感覚を身につけるために、海外派遣や講座を実施する。 (5)-1 中学1・2年生を対象に、交流会やホームステイを内容とした海外派遣を実施する。	(5)-1 中学生国際交流学習事業	進捗率 A	弘前市内中学校から60名を超える参加申込みがあり、一次選考で20名に、二次選考で10名を選考した。全行程10日間のうち6日間ホームステイを体験し、帰国後は報告会を実施し、その後報告書を市内小中学校に配布した。よって、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	目標を参加人数としており、平成24年度は予定どおり10名が参加したので、**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			派遣者数 10人/年	－	9人	10人	
			【参考】ホームステイの経験を生かし、将来の弘前のために貢献したいと考える生徒の割合 100%	－	－	－	
		今後の課題	募集枠の拡大について学校から要望があること、また、参加後に体験発表を各学校でやってもらうことで還元するという考えから、学校単位でかつ学校規模を考慮した人数を選考したいと考える。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
(5)-2 同じアジア地域にあって、歴史的にも我が国と深い関りがあり、国際社会でも大きな力をもつ中国と韓国の文化、習慣、言語等を理解できるような子どもたちを育成するため、おおむね小学4年～6年生を対象にした講座を実施する。	(5)-2 国際理解講座「キッズ・アジアン」	進捗率 A	平成23年度から3年をかけて各国の文化と会話を身につけていく内容で、中国・韓国それぞれ各月1回のペースでカリキュラムを組んで講座を行っている。当初からの計画どおり、各講座を12回ずつ開催したことから、**「行程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	当初の目標である「参加者数20人」に達しているので、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
参加者数　20人	－	16人	21人	
【参考】初級会話能力を身につけることができた会員数の割合　各コース　50%以上	－	－	－	

今後の課題	3年目を迎え、多くの会員が初級レベルの会話に対応できている。今後は身につけた知識の活用であり、できる限り交流事業に積極的に参加させるかが課題である。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-5	次の弘前を担い、創る「弘前リードマン」認定制度の導入	次世代の弘前を担い、創る、優れた人材の発掘と情報発信を推進するために、各分野で活躍している人物を「弘前リードマン」として認定し、学校、地域等での活用を図る。	進捗率 A	弘前リードマン認定・派遣制度の実施要綱、事務要領を作成し、弘前リードマンの認定及び活用事業を実施したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
			達成率 A	目標は、「リードマン派遣講座等参加者数100人/年」としているが、189人の参加があったことから、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
リードマン派遣講座等参加者数　100人/年	－	－	189	
【参考】弘前リードマン認定者数　4人/年	－	－	4	
決算額	0	9	123	

事務事業名	弘前リードマン認定・派遣事業
今後の課題	市の研修等への派遣等、弘前リードマンの活用を進めていく。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-6	「弘前マイスター」による出前授業	弘前の未来をつくる人づくりのために、弘前マイスターによる優れた技能・技術の紹介や体験学習などをとおして、後継者の育成を図る。	進捗率 A	弘前マイスターを認定し、出前授業を開始したことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
			達成率 C	出前授業が目標の回数に達しなかったことから、、**「遅れている」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
弘前マイスター出前授業回数 5回/年	－	－	1	
決算額	0	0	9	

事務事業名	弘前マイスター出前授業
今後の課題	マイスターによる優れた技能・技術の紹介や体験などをとおして、後継者育成を図るため、出前授業の制度等の周知を積極的にPRする必要がある。

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-7	小学校実践英語教育モデル校の試行（英語による授業の試行）	進捗率 A	モデル校で、ALTと学級担任のTTが機能し子どもたちが意欲的に学習していること、及び、英語支援員の派遣によって学級担任への授業支援が充実している点で、**「工程表どおりに実施済み」**と評価した。
		達成率 A	構成する2事業について「目標を達成済み」であることから、施策全体として**「目標を達成済み」**と評価した。

	H22	H23	H24	H25
決算額	0	3,997	6,458	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
小学校5・6年生が積極的に英語を使った学習をしながら、英語に慣れ親しむための取り組みを行う。 ・平成23年度からは外国語指導助手（以下「ALT(※37)」という。）を1名増員し小学校2校を、平成25年度からはALTをさらに2名増員し5校をモデル校に指定する。 ・すべての外国語活動で外国人のALTと一緒に活動する。 ・英語活動支援員JET(※38)を各小学校に派遣し、モデル校の英語研究成果を還元する。	小学校実践英語教育モデル校実践研究事業	進捗率 A	モデル校2校にALTを年間35時間の全授業に派遣した。毎回同じALTが訪問したので学級担任とのTT、児童との関係がうまくいった。間違いを恐れず堂々とALTと英語で会話する児童が増えたこと、学級担任がALTと二人で英語を使いながら授業をしているので、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	派遣回数を優先的に35回確保し、児童・教員に関する5月と11月のアンケートで各指標が全て達成されたので**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
英語で簡単な挨拶やコミュニケーションができる児童 80%	―	77.80%	88.50%	
ALTと簡単な英語を使いながら授業実践できる教員（5・6学年担任） 100%	―	100%	100%	
外国語活動の授業にALTが派遣される回数 35回実施	―	35回	35回	
決算額	―	3,997	5,070	

今後の課題	研究授業や研究協議会で外国語活動に関する有益な情報を共有し、小学校教員の外国語指導力の向上を図る必要がある。

事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
英語活動支援員JTE+1派遣事業	進捗率 A	モデル校での実践を他の小学校に周知するために、英語支援員を1小学校当たり、20回以上は派遣することを目標としていることから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
	達成率 A	派遣計画作成時に小学校の外国語活動担当者と一緒に行っているが、各校から非常に熱心に派遣要請をいただいている。1校当たりの派遣回数20回以上は毎年**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
各小学校でのALT・英語活動支援員を含めた1校あたりの訪問回数 20回/1校	―	―	23	
決算額	0	0	1,388	

今後の課題	臨時的財源である緊急雇用の英語活動支援員だが、もし打ち切りになった場合、指標を達成することができないため、現員体制の維持が必要である。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-8	弘前マイスター認定制度の導入とネットワーク化	地域産業の活性化を図るために、優れた技能・技術を有し、商工業・農業など産業全般に携わる現役の技能・技術者を弘前マイスターに認定する。 また、マイスターのネットワーク化を図り、貴重な技術・技能の保存・継承・振興を図る。	進捗率 A	弘前マイスターを募集し、認定したことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
			達成率 A	目標である認定者数5名に達したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25	
			弘前マイスター認定者数 5人/年	－	－	5		
		事務事業名	決算額	0	0	232		
		弘前マイスター認定事業	今後の課題	毎年実施していくうえで、業種の偏りが懸念される。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-9	弘前地場産業インターンシップ（中学・高校・大学からの受け入れ）の試行	インターンシップの実施状況、問題点、意見等を学校側と地場産業側の両サイドから調査を行い、問題点を把握する。 現在、学校が行っているインターンシップについて、より効果的に行われるよう環境を整備する。	進捗率 A	平成24年度は、インターンシップ協力事業所一覧及びインターンシップ受入ガイドを情報提供することとしていたが、平成25年3月に、各教育機関へ事業所一覧を配付するとともに、受入協力事業所へ受入ガイドを配付したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
			達成率 A	目標を「インターンシップを行った生徒数」としているが、平成24年度は、1,096人と目標値を上回ったことから、**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25	
			インターンシップを行った生徒数 1,100人(H25) 1,013人（H22）、1,042人（H23）、1,071人（H24）	1,013	1,010	1,096		
		事務事業名	決算額	0	79	55		
		弘前地場産業インターンシップ事業	今後の課題	インターンシップ協力事業所一覧を更新していくうえで、新規受入事業所の掘り起こしに課題がある。				

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-10	大学や市立図書館の専門書の充実	進捗率 A	施策を構成する2事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価になっていることから、施策全体としても**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	施策を構成する2事業について、「目標を達成済み」が1事業、「概ね順調に推移」1事業となったが、市立図書館の専門書の充実は図られていることから、施策全体としても**「目標を達成済み」**と評価した。

	H22	H23	H24	H25
決算額	0	1,200	1,200	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
学園都市にふさわしい図書利用環境の充実を図るために、次の取り組みを行う。 (1)市立図書館における、市民ニーズを反映した専門書の充実 (2)大学との連携により、大学所蔵専門図書情報の市民提供や利用できる環境づくり	(1)市立図書館専門書購入事業	進捗率 A	市民ニーズを反映するため、専門書についての要望アンケートを実施して購入の参考としたほか、㈱図書館流通センター「専門コレクション研究会」の推薦図書や館内資料選択委員の選書などにより計画的に購入ができたことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は、「専門書購入数120冊／年」となっており、計画的な購入により138冊を購入でき専門書の充実も図られたことから、**「目標を達成済み」**と評価した

目標	H22	H23	H24	H25
専門書購入数(H23～H25)累計300冊(H25) 120冊/年(H24)	－	104	138	

今後の課題	専門書コーナーの配架スペースが満杯状態となっているので、貸出実績の少ないものや発行年の古いものから一般書へと配架替えをしていく必要がある。

(2)大学図書館連携事業	進捗率 A	コンソーシアムの活用による各大学との情報交換（アンケート）を行い、実施可能な連携事業を検討のうえ、利用できる環境づくりと一般開放への働きかけに大学図書館へ訪問し、ホームページへのリンクの承諾等を頂いたことにより**「工程表どおり実施済み」**とした。
	達成率 B	目標は、「連携実施大学数」としているが、3大学図書館のホームページへのリンクが可能となったことにより、**「概ね順調に推移」**とした。

目標	H22	H23	H24	H25
連携実施大学数(H23～H25)全6校	－	0	3	

今後の課題	図書館システムの導入がされていない大学や図書館ホームページの開設が準備中のところがある。

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-11	企業技術者の地元大学等研究機関への研修派遣支援	地場産業の継続的発展に向けた人材育成と新商品開発の研究支援のために、研究機関の持つシーズ(※39)、企業が求めるニーズを発掘し、地元大学・研究機関等への派遣や研修について支援する。	進捗率 A	平成24年度から、市内中小企業者が地元の大学などに技術者を派遣して共同研究又は研修を行う際に要する経費の一部を補助する企業技術者研修派遣事業費補助金を創設し、支援策を講じたことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
			達成率 C	目標は企業技術者研修派遣事業費補助金による企業への支援件数であるが、制度要件と企業の取組みがマッチしないケースがあり、目標の5件に対して補助金の交付実績は1件となり、**「遅れている」**と評価した。				
				目標	H22	H23	H24	H25
				支援件数　5件/年	－	－	1件	
		事務事業名		決算額	0	0	200	
		研究機関への研修派遣支援	今後の課題	積極的に企業への情報発信を行い、地場産業発展に係る人材育成、商品開発に向けた研究支援制度の活用を広く周知、PRする必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容				
4-(2)-12	「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定	文化・スポーツの分野において、弘前の未来をつくる人づくりのため、市民の意見を反映させながら、才能育成アクションプログラムを策定する。 (1)文化編：文化・スポーツなどの才能に秀でた人物に接する機会を増やすためのイベント招致や講演会を実施する。 (2)スポーツ編：トップアスリート育成プログラムを策定するとともに、ジュニア競技者等の育成を支援する。	進捗率 C	文化編は、24年10月に策定。スポーツ編は、24年度中の策定に至らなかったことから**「工程表より遅れている」**と評価した。				
			達成率 B	スポーツ編について、24年度中のプログラム策定に至らなかったものの、トップアスリート招致事業などプログラム策定に先駆けて個別に展開している事業もあることから**「概ね順調に推移」**と評価した。				
				目標	H22	H23	H24	H25
				ワークショップの開催回数 3回/年	－	1	0	
				【参考】アクションプログラムに基づく新規事業の実施件数、参加人数 4件/年、600人/年	－	－	－	
				【参考】トップアスリートによる講演会等の実施件数、参加人数　10件/年、1,000人/年	－	5件　714人	11件　1,608人	
		事務事業名		決算額	0	24	0	
		アクションプログラム策定事業	今後の課題	状況変化に応じたプログラムの修正、事業実施後の検証等を行っていく必要がある。				

No.	項目	実施内容	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-13	目指せプロフェッショナル・キャリア支援（指導者・選手の市役所への臨時雇用など）	弘前の未来をつくる人づくりのために、企業等が当市出身等の一流選手・指導者などを雇用した場合、雇用に係る経費の一部を助成する。	進捗率 A	市内各スポーツ団体等に対し、制度の説明を実施し企業への雇用を促進したことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
			達成率 C	制度の周知により、3名の雇用は行われたが、目標の10人には達していないため、**「遅れている」**と評価した。雇用が進まない原因としては、スポーツでの人材を雇う企業等が少ない事である。

目標	H22	H23	H24	H25
支援者数 10人/年	－	－	3	
決算額	－	－	4,117	

事務事業名	今後の課題
スポーツ人材雇用奨励事業	3年間限定の補助金であり、期限が切れた後も各企業等が雇用を継続できるかが問題である。企業と検討を進めていきたい。

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
4-(2)-14	一流に触れるため文化・スポーツなどのイベントの積極的誘致	進捗率 A	施策を構成する4事業について、それぞれ「工程表どおり実施済み」との評価となっていることから、施策全体としても**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	施策を構成する4事業のうち、すべての事業が「A」となっていることから、施策全体の達成率については「目標を達成済み」と評価した。

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
文化・スポーツの分野における、弘前の未来をつくる人づくりのために、一流に触れるためのイベントを実施する。 (1)文化分野 ①「津軽文化講演会」、「ドリームコンサート、ドリームゼミナール」、「俳句甲子園弘前大会」の実施、及び「将棋名人戦」を招致し、才能豊かな人材との交流を実現させる。	(1)文化分野 ①音楽芸術後継者育成事業他	進捗率 A	平成24年度は、津軽文化講演会、音楽芸術後継者育成事業（ドリームコンサート・ドリームゼミナール、弘前ユースストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業の3事業）、弘前城薪能（関連事業として弘前城薪能を楽しむためのワークショップ全5回を併せて実施した）、伝統文化後継者育成事業（津軽の音コンサート）、将棋名人戦弘前対局開催記念大会事業、俳句甲子園事前講習会・模擬試合、俳句甲子園地方大会（弘前会場）の9件の事業を予定どおり実施した。なお、俳句入門教室については、講師の都合により開催できなかったものの、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は、8件/年になっているが、9件の事業が実施されたことから、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年（※①～③計10件。①は8件/年）	8	8	9	
【参考】著名講師による講演会や一流に触れるための事業参加人数 4,500人/年	4,307	5,140	3,933	
決算額	6,215	12,042	27,587	

今後の課題
継続事業の見直しや新規事業の検討等、いわゆるスクラップアンドビルドが課題となってくる。

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
②「児童劇観劇教室」のために招へいした劇団員等を演技指導などのスタッフとして中学生を対象にワークショップ形式で実施する。 また、ジュニア育成コースの設置に向けた支援策として運営補助システムを構築する。 ③市内文化芸術団体の文化芸術力を披露したり体験させたりすることで文化芸術への関心、興味を持たせると共に子ども自身の適性に対し発見や自覚を促す。 また、各団体によるジュニア育成コースの設置に向けた支援策として運営補助システムを構築する。	(1)文化分野 ②プロによる演劇ワークショップ	進捗率 A	11月29日弘前市民会館において、「演劇ワークショップ」を開催し、市内の中学生53名が参加し劇団芸優座の演出家、俳優から演技指導を受けたことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	目標は、1件/年になっているが、年1回開催したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。				
		目標		H22	H23	H24	H25
		著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年（※①～③計10件。②は1件/年）		－	－	1	
		【参考】参加に際し掲げた目的を達成できた割合　80%		－	－	－	
		決算額		0	0	80	
		今後の課題	昨年度参加した生徒の大半は、参考になったなどの意見があったことからも継続して実施し、また、弘前地区中学校文化連盟の意見を聞くなどして、有意義なものとしたい。				
	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
	(1)文化分野 ③市内アーティスト体験ワークショップ	進捗率 A	7月29日（日）に弘前市総合学習センターにおいて「こどもアート体験ひろば2012」の行事名で実施。市内の文化芸術団体17種目18団体が小学生を対象とした体験コーナーを提供し、親子合わせて延べ約1800人が参加したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	目標は、1件/年になっているが、年1回開催したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。				
		目標		H22	H23	H24	H25
		著名講師による講演会や一流に触れるための事業開催数 10件/年（※①～③計10件。③は1件/年）		－	－	1	
		【参考】体験して芸術文化に興味をもった小学生の割合　60%		－	－	43	
		決算額		0	0	623	
		今後の課題	文化芸術に親しむきっかけづくりとしての体験ワークショップを定着させ、文化芸術団体との連携を深めながら継続的に学習するための受け皿の充実を図る。				

<table>
<tr><th>実施内容</th><th>事務事業名</th><th>自己評価</th><th colspan="5">平成24年度実施内容</th></tr>
<tr><td rowspan="7">(2)スポーツ分野
一流選手(トップアスリート)等を招いて実施する教室、講演会、試合等を支援する。</td><td rowspan="7">(2)トップアスリート招致支援事業</td><td>進捗率</td><td colspan="5" rowspan="2">一流に触れる機会を創出するため、制度の周知と補助金の交付を行い、目標を上回る利用があったため、<u>「工程表どおり実施済み」</u>と評価した。</td></tr>
<tr><td>A</td></tr>
<tr><td>達成率</td><td colspan="5" rowspan="2">目標を年10件と設定していたが、目標を上回る利用があったことから<u>「目標を達成済み」</u>と評価した。</td></tr>
<tr><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="2">目標</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td></tr>
<tr><td colspan="2">トップアスリート招致件数（H23～H25）10件/年
（初年度は3件/年）</td><td>－</td><td>5</td><td>11</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">決算額</td><td>－</td><td>2,927</td><td>8,732</td><td></td></tr>
<tr><td>今後の課題</td><td colspan="5">―</td></tr>
</table>

No.	項目	自己評価	平成24年度実施内容
☆ 4-(2)-15	中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上	進捗率 B	施策を構成する8事業について、7事業については「工程表どおり実施済み」、1事業については「遅れている」との評価になっていることから、施策全体としては**「工程表どおり実施済みで、一部が遅れている」**と評価した。
		達成率 B	構成する8事業について、「目標を達成済み」が6事業、「遅れている」が2事業となり、施策全体としては**「概ね順調に推移」**と評価した。

	H22	H23	H24	H25
決算額	0	0	9,410	

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容
当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(1)(仮称)ICT活用による小中連携推進事業	進捗率 A	平成24年度は,年3回のテレビ会議システム活用した回数を予定していたが、年3回のテレビ会議システムを利用した事業を実施したため、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標を「テレビ会議システム活用した回数」としているが、目標の年3回を達成したことから、**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
学校間においてテレビ会議システムを活用した回数　延3回/年(H24)　延8回/年(H25)	－	－	3	
決算額	0	0	4,150	

今後の課題	年8回の使用を目標にした、様々な活用方法の模索が必要である。

	(2)小中連携教育推進事業	進捗率 A	弘前市内16中学校区からそれぞれの小中連携教育プランが作成、提出された。また、年1回の小中連携教育推進研修会を実施したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。
		達成率 A	目標は「小中連携教育プラン作成　16地区/16地区」、「小中連携教育推進研修会　1回/年」であり、全て達成できた。さらに「教育フォーラム」を実施したことから**「目標を達成済み」**と評価した。

目標	H22	H23	H24	H25
小中連携教育プラン作成　16地区/16地区	－	－	16	
小中連携教育推進研修会　1回/年	－	－	1	
決算額	0	0	33	

今後の課題	本事業は学校教育指導の最重点の1つとして定められているため、「教育フォーラム」及び「小中連携教育推進研修会」は各課かい連携、協働で進める必要がある。

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(3)(仮称)学校種間連携教育モデル地区事業費補助金	進捗率	規模の異なる4つのモデル地区が既存の組織を活かし、組織的、計画的に小中連携教育に取り組み、学校種間の円滑な連携・接続の在り方について先導的・先進的な研究及び事業が推進された。また、4モデル地区全てが事例報告を実施したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「先導的・先進的な研究による事例報告　2～4モデル地区」であり、全て達成できたことから**「目標を達成済み」**と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		先導的・先進的な研究による事例報告　2～4モデル地区		－	－	4	
		決算額		0	0	400	
		今後の課題	4つのモデル地区での先導的・先進的な研究や事業を他中学校区での小中連携教育へどのようにつなげるかが課題である。				
	(4)小中連携教育推進事業費補助金	進捗率	中学校区を基盤とした小中連携教育の推進で、小・中学校間の交流や協働のきっかけとなり、学校力・地域力の向上のための一助となった。また、モデル地区以外の全中学校区で事例報告がされたことから**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		A					
		達成率	目標は「事例報告　モデル地区以外の全中学校区」であり、全て達成できたことから**「目標を達成済み」**と評価した。				
		A					
		目標		H22	H23	H24	H25
		事例報告　モデル地区以外の全中学校区		－	－	12	
		決算額		0	0	600	
		今後の課題	それぞれの学区での取組状況を共有し、自校区での小中連携教育の深化・拡大につなげていくかが課題である。				
	(5)中学校を支援する人材バンク活用事業	進捗率	平成24年度は、全市立中学校に対して学校へ出向いて事業の趣旨説明と活用の要請を実施していることから、各中学校への施策の周知は図られていると判断できるため、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		A					
		達成率	目標の1つ目「人材バンク登録者」は、150人／全市に対し115人の登録であるため、「遅れている」と評価。また、目標の2つ目「活動回数」は、48回／年に対し38回(同一テーマでの1シリーズを1回とした。)の開催であるため、「遅れている」と評価したことから、全体のとしては**「遅れている」**と評価した。				
		C					
		目標		H22	H23	H24	H25
		登録者　150人／全市		－	－	115	
		活動回数　48回／年		－	－	38	
		【参考】年間2回以上の事業を実施する学校数　16校		－	－	3	
		決算額		0	0	25	
		今後の課題	中学校の学習に適した人材の掘り起こしや中学校毎に総合的な学習等の実施状況に差があるため、調整が非常に難しい状況となっていることから、連携した事業の継続や拡大を進める際の課題となっている。				

実施内容	事務事業名	自己評価	平成24年度実施内容				
当市の地域社会の歴史的・文化的伝統等の「くくり」の基盤となっている中学校区を単位に、小学校、中学校、地域それぞれが「連携・協働」し、社会全体で教育に取り組めるような環境づくりを進めるため、教育委員会各課各施設横断的に次の事業を行う。	(6)史跡等公開活用事業	進捗率 A	平成24年度は、堀越城跡のパンフレットやポスターなどの広報資料作成、現地公開・学習会の開催、大森勝山遺跡史跡指定記念講演会開催などを実施したことから、**「工程表どおり実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	パンフレットやポスター作成は2遺跡で32000枚作成し、現地公開及び学習会の開催は9回で599人、講演会の開催は2回で265人参加したことから**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			パンフレット(1万枚)、ポスター(500枚)の作成[各遺跡]	－	－	32,000	
			現地公開及び学習会の開催　年8回程度	－	－	9	
			講演会の開催　年2回程度	－	－	2	
			【参考】現地見学会等の参加者数　400人/年	－	－	864	
			決算額	0	0	1,190	
		今後の課題	学校行事との調整や教員並びに児童生徒のニーズの把握。				
	(7)わがまちの歴史と文化探訪・紹介マップ事業	進捗率 C	平成24年度は、モデルとなる中学校に対し事業の実施を打診したが、学校側の年間スケジュールが厳しく、新規の活動を組み込む余裕がないということで、事業の具体的な内容を協議・調整するに至らなかったことから**「遅れている」**と評価した。				
		達成率 C	目標は、事業実施校数(中学校区)3地区/年になっているが、実施できなかったことから**「遅れている」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			事業実施校数(中学校区) 3地区/年	－	－	0	
			【参考】マップ作成数　3枚/年	－	－	3	
			決算額	0	0	0	
		今後の課題	学校区の範囲や取組時間の確保と地域との連携が課題。また、マップの作成が試行錯誤の状況である。				
	(8)ソフトボール指導事業	進捗率 A	要望のあった学校等に対し、学校体育での指導や講話を行ったことから**「工程表どおりに実施済み」**と評価した。				
		達成率 A	週3回程度の目標に対し、週3.1回の派遣を実施したことから**「目標を達成済み」**と評価した。				
			目標	H22	H23	H24	H25
			要望のあった学校に対し、学校体育での指導　　週　3回程度	－	－	3.1	
			決算額	0	0	3,012	
		今後の課題	立ち上げたチームで試合への出場ができるよう、大会等の開催を検討する必要がある。				